

JA全農WEEKLY

4
5面

各地で野菜の消費を推進

「やさいの日」にあわせてフェアやイベント（府県本部ほか）

2面

米の適正な価格形成と消費拡大を関係団体に要請
日本生活協同組合連合会を訪問（米穀部）



日本生活協同組合連合会に要請する（左から）全農の桑田義文専務、全中の馬場利彦専務（2面）



ファミリーマートが販売した「ごちむすび 比内地鶏の炙り焼き鳥めし」（3面）



2 新潟米広域集出荷施設 田上倉庫が完成
（新潟県本部）

3 3年ぶりの東京開催「第13回雄町サミット」
（岡山県本部）

「ごちむすび 比内地鶏の炙り焼き鳥めし」発売
（全農チキンフーズ(株)、営業開発部）

6 ブランドヒストリー
全国第3位の生産量を誇る「伊勢茶」
ブランド確立へ、オール三重で取り組みを
推進（三重県本部）

7 JAズームイン（JAたのふじ：群馬）

8 全農の直営飲食店舗で
「長野県産ぶどう三姉妹フェア」
（長野県本部、フードマーケット事業部、園芸部）

COUNTDOWN JAPAN in 長崎
公開生放送
あぐりずむ未来へつなぐあぐりパワー
鹿児島へ出張取材
（広報・調査部）

JAタウンショップ紹介
JA全農大阪



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちらから



Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

※9月30日はシステム更新のためWeb版は休刊いたします



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ

全農

News!



米の適正な価格形成と消費拡大を関係団体に要請

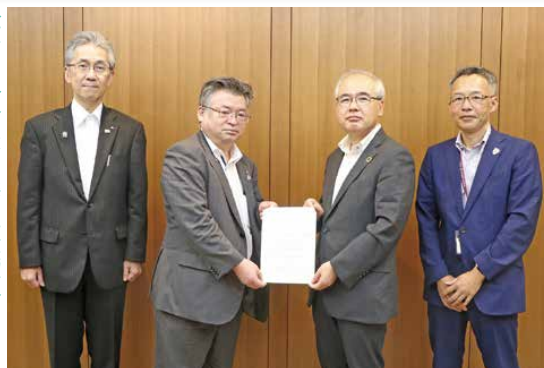
日本生活協同組合連合会を訪問

米穀部

全農は持続可能な米の生産に向けた適正な価格形成と国産米の消費拡大に向けた要請活動の一環として、全中とともに8月17日から卸・小売業者、量販店、中食・外食業者などの全国団体を訪問しました。

同月23日には日本生活協同組合連合会を訪問し、全中の馬場利彦専務と全農の桑田義文専務から農家の窮状を訴え、営農継続可能な生産者の手取り確保につながる適正な価格形成への理解を求めました。

桑田専務は「生産者のお



(左から)全農の桑田専務、全中の馬場専務、日本生活協同組合連合会の藤井専務、大西伸一商品本部長

かれていた実情を日本生活協同組合連合会の会員にも共有いただき、商談価格への反映をお願いしたい」と述べました。これに対し、日本生活協同組合連合会の藤井喜継専務からは「生産資材価格の高騰で、農家の所得が大きく減少する懸念が高まっていることは理解している。同じ協同組合の仲間として、地域経済の発展を含めて国産米の消費拡大にできる限り協力していきたい」とのコメントをいただきました。

さらに、「飼料用米を活用した畜産物も意識し、各方面と連携して取り組んでいる。今後、米粉用米の拡大に向けて変遷する食文化に適した食材として確立できるよう関係者が一丸となって取り組む必要がある」などと意見を交わしました。

News!



新潟米広域集出荷施設 田上倉庫が完成

県産米の収容力確保、流通コスト削減に取り組む

新潟県本部

新潟県本部は、新潟米広域集出荷施設 田上倉庫が完成し、9月2日に竣工式を行いました。延べ床面積1万786平方メートル、鉄骨造り平屋建て、最大収容力約2万トンを有します。

新潟米広域集出荷施設の

1棟目は、2017年に県北部の聖籠町に建設し、生産者の大規模化に伴うフレキシブルコンテナでの出荷

ニーズへの対応や県内JAグループにおける県産米の収容力確保、流通コスト削減に取り組んできました。

その後もフレキシブルコンテナでの出荷が拡大しており、一層の収容力確保が必要となっていることから、

立地条件などを考慮し、2棟目を県中央部の田上町に建設しました。

竣工式には、来賓に佐野恒雄田上町長らを招き、施工業者である(株)廣瀬の廣瀬徳男代表取締役、新潟県本部運営委員会の伊藤能徳会長、柄澤和久副会長、全農の高尾雅之常務ら関係者25人が出席しました。伊藤会長は、あいさつで「1棟目とあわせて、広域集出荷拠点としての機能を発揮し、新潟米の安定供給に取り組んでいく」と述べました。



竣工式であいさつする伊藤会長



完成した「新潟米広域集出荷施設 田上倉庫」



3年ぶりの東京開催「第13回雄町サミット」

幻の酒米「雄町」で醸された日本酒と“オマチスト”が全国から集結

岡山県本部



「雄町」で醸された日本酒を飲み比べてもらった懇親会



全国124蔵から出品があった「第13回雄町サミット」の審査会

「雄町サミット」は、酒米「雄町」の主産地である岡山県の酒米生産者と酒蔵が、「雄町」を原料にした日本酒のPRを目的に開いているイベントです。岡山県産「雄町」という同一原材料の日本酒が全国各地の蔵元から集まる会として好評を得ており、今年で13回目となりました。

コロナ禍により一昨年は中止、昨年は歓評会のみで開催でしたが、今年は酒販店、飲食店、酒造会社を対象とした利き酒会や、誰でも参加できる立食形式の懇親会も併せて実施。「雄町」ファンや、まだ「雄町」を知らない方にも、「雄町」で醸された日本酒を存分に飲み比べてもらい、各酒蔵が醸す「雄町らしさ」を多くの方に味わっていただきました。

岡山県本部は、この雄町サミットを通じて、日本全国の方々に「雄町」を使用した日本酒の個性的な味わいを知っていただき、今後も「雄町」の日本酒を愛飲する“オマチスト”が増加するようPRに努めます。

岡山県本部は8月30日、岡山県酒造好適米協議会、岡山県酒造組合と共催で、ホテル椿山荘東京で「第13回雄町サミット」を開催しました。全国36都道府県124蔵から209点の出品があり、その中から49点が優等賞に選ばれました。



「ごちむすび 比内地鶏の炙り焼き鳥めし」発売

ファミマで販売 豪雨被害の“産地応援”にもつなげる

全農チキンフーズ(株)、営業開発部



ごちむすび 比内地鶏の炙り焼き鳥めし



ファミリーマートの「ごちむすび」は、米、海苔、具材にこだわった「贅沢おむすび」シリーズで、累計1億5000万個を販売した大ヒット商品です。

全農チキンフーズ(株)が原料供給した秋田県産比内地鶏を具材に使用する「ごちむすび 比内地鶏の炙り焼き鳥めし」が、9月13日からファミリーマート全国約1万6600店舗で発売されています。

今回は、日本三大地鶏の一つで、弾力のある肉とうまみが豊かな脂が自慢の比内地鶏を使用しています。食べやすくカットした比内地鶏のもも肉とむね肉を、しょうゆベースの特製だれを塗って炙り焼きにして中の具にし、ご飯も比内地鶏のスープを加えて炊き込み、具材からご飯まで比内地鶏のおいしさが丸ごと味わえる商品です。

本企画では、JAグループ秋田の組合員が愛情を込めて育てた比内地鶏をJA全農北日本くみあい飼料が集荷し、全農チキンフーズへ供給します。また、今年8月の秋田県北部地方での記録的大雨で、比内地鶏の生産者も甚大な被害を受けており、今回の商品販売を産地応援にもつなげていきたいと考えています。

推進

「やさいの日」にあわせてフェアやイベント

8月31日の「やさいの日」を中心に、全農は野菜の消費推進活動を展開しました。各都府県での取り組みを紹介します。

山梨県本部

「ヴァンフォーレ甲府」のホームゲームで県産野菜の詰め合わせ提供

山梨県本部は、山梨県や山梨県農畜産物販売強化対策協議会と連携し、「野菜の日キャンペーン」の一環として、8月27日に明治安田生命J2リーグ「ヴァンフォーレ甲府」のホームゲーム内でのハーフタイム抽選会に、県産野菜の詰め合わせ20人分をプレゼント提供しました。

キャンペーンは安全・安心な県産農畜産物を供給する山梨の農業と、それを補完するJAの役割について県民へのさらなる理解促進に努め、県産野菜の消費拡大を広くアピールすることを目的に行いました。



大型オーロラビジョンで県産野菜のPR画像を映し、アナウンスでもアピール

青森県本部

店頭でのフェアとYouTubeイベントで県産野菜をPR

青森県本部は県内のスーパーマーケットで「『やさいの日』JAフェア」を開き、「やさいの日」の認知度向上や地産地消を呼びかけました。

また、YouTubeアカウントで「青森やさいオンラインイベント2022」を開催しました。県産野菜についてさまざまな企画を



「やさいの日」JAフェア

用いてPR。「食品ロスを減らそうクッキング」など視聴者が楽しめる内容を展開しました。動画は3月31日まで同アカウントで公開しています。

YouTubeはこちら



京都府本部

農畜産物直売所「きちゃり～な」で「やさいの日」イベントを開催

京都府本部の農畜産物直売所「丹後やさい館 きちゃり～な」は8月31日、「やさいの日」にちなんでイベントを実施し、多くの来場者でにぎわいました。当日は、地元産野菜をはじめキャベツ、ダイコン、桃、リンゴなどを販売。また、税込み831円以上の購入者へJAグループのマスコットキャラクター「笑味ちゃん」の除菌ウェットシートをプレゼントしました。



831の日にちなんだプレゼントも実施

除菌ウェットシートをプレゼントしました。

今後も、安全で安心な京野菜をはじめとする農畜産物の消費拡大・地産地消の取り組みを行い、来場者が楽しめるイベントを開催していきます。

千葉県本部

キッズ向け「クマーバチャンネル」と初コラボフレッシュボックスを期間限定販売

千葉県本部は、キッズ向けYouTube「クマーバチャンネル」の人気キャラクター「クマーバ」と初めてコラボし、JAタウンの「愛情いちばん館」でJAきみつのオクラやキュウリなど旬の野菜や米、みそ、花の詰め合わせを販売しました。オリジナルのクマーバデザインのボックスには、子どもと一緒に野菜の日を楽しめるアイテムとして、農産物とともにクマー



クマーバとコラボしたフレッシュボックス

バのぬいぐるみや塗り絵などの特典をセットにしました。

愛情いちばん館はこちら



各地で野菜の消費を

広島県本部

耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」PR 3周年を迎え産直市で記念イベント

広島県本部は、耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」が、8月31日にブランド開始から3周年を迎えたことを受け、産直市「とれたて元気市 広島店」で記念イベントを行いました。

当日は3-R商品を購入した来店客を対象に、「831の日」にちなんだ「3-R野菜の詰め合わせセット」や「3-R広島こめたまご」、「3-Rオリジナルマスク」をガラポン抽選の結果ごとに配布しました。また、参加者全員に3-Rの取り組みを漫画化したパンフレットを配布し、3-Rの周知を行いました。



ガラポン抽選会に参加する来店客（8月31日、広島市で）

岡山県本部

岡山県産夏野菜×ラブベジ® 県民の健康増進へオリジナルメニュー作成

岡山県本部は、味の素(株)が取り組む「ラブベジ®」プロジェクトに賛同し、地元大学や団体、企業と共に、岡山県産夏野菜を使ったオリジナルメニューリーフレットを作成しました。この取り組みは、岡山県民の健康増進と野菜摂取量拡大を目的としたもので、作成したリーフレットは、県内のスーパー約70店舗で無料配布しました。

岡山県本部は、この取り組みをきっかけとして、県内の生産者が丹精込めて作った“旬の夏野菜”を、さまざまな料理で楽しんでいただき、消費拡大にもつながってほしいと考えています。



メディア発表の様子（岡山市）

広報・調査部、園芸部

小学生が「だいきらい野菜バイト」 野菜について学び、生産者を応援

全農は野菜嫌いの小学生を対象に“きらいな野菜を収穫する”条件付きのアルバイト「だいきらい野菜バイト」を、伊藤農園asobibatake（東京都調布市）で開催しました。このイベントは生産者を応援するために、野菜について学ぶ場を提供し、一人でも多くの子どもたちが野菜に対する見方を変えてくれることを願って実施しました。

参加者は、全農の園芸担当者から野菜の持つ栄養について、農園の伊藤彰一氏から野菜の育て方について話を聞いた後、畑に出て野菜を収穫。アルバイトの“ほうしゅう”として、自分たちで収穫した新鮮な野菜と、図書カードを受け取りました。



集合写真

大分県本部

県内量販店で県産夏野菜フェア JAグループと県が消費拡大へPR

大分県本部を含むJAグループ大分と大分県は、夏野菜の出荷量の増加に合わせて、県内量販店で「県産夏野菜フェア」を実施しました。フェアでは県産夏野菜を陳列した売り場を設置。また、大分県本部が認定している「おおいたクッキングアンバサダー」が考案した夏野菜活用レシピを紹介し、県産夏野菜の消費拡大を図りました。



大分県産夏野菜コーナーを設置



ブランドヒストリー 11

全国第3位の生産量を誇る「伊勢茶」
ブランド確立へ、オール三重で取り組みを推進

1年を通して温暖で適度な降水量に恵まれた三重県は、ほぼ全域が茶の生産適地で、栽培面積、荒茶生産量のいずれも全国第3位の生産県です。県内で生産される茶は「伊勢茶」と総称し、「煎茶」をはじめ、県北部特産の「かぶせ茶」、県南部特産の「深蒸し煎茶」など、それぞれの地域で特徴ある茶を生産しています。

【三重県本部】

全国第3位のお茶どころ

三重県での茶の歴史は古く、10世紀初頭には茶の栽培が始まっています。江戸時代には伊勢商人によって上方や江戸で幅広く販売され、明治期には輸出や紅茶の生産が盛んに行われるなど、日本全体の茶生産において重要な役割を担ってきました。

1975年に4000鈔規模であった栽培面積は、その後、ライフスタイルの多様化や各種飲料の伸長による消費量の減退、生産者の高齢化や担い手の不足から減少傾向となり、2021年は2640鈔となっています。

他方、全国のブランド産地の茶と比較すると、伊勢茶は他府県産銘柄茶の原料用茶として出荷・販売されることも多く、流通・消費段階で伊勢茶のブランドを確立することが重要課題となっています。

オール三重で取り組む
伊勢茶振興

消費者の信頼に応えるため、生



みえ応援ポケモン「ミジュマル」
とのコラボ商品（ペットボトル茶、
ティーバッグ）をPRする関係者

Supported by
© Pokémon, © Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.
ポケモンモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャー・ゲームフリークの登録商標です。

産者団体と茶商工業団体、茶市場などで構成する三重県茶業会議所を核に「安全・安心な伊勢茶づくり運動」を推進し、生産履歴の記載や農業生産工程管理（GAP）、製茶工場の衛生管理などの取り組みを進めています。

2002年に自主規定の「伊勢

伊勢茶
ブランドサイト伊勢茶
ブランドロゴ

茶ガイドライン」を設けるとともに、07年には三重県産100%の緑茶として地域団体商標に認定登録されるなど、伊勢茶のブランド化に取り組んでいます。

また、伊勢茶銘柄による商品の販売拡大を目的に、県本部などの3茶市場で構成する伊勢茶推進協議会では、県や関係団体と連携して「伊勢茶マイボトルキャンペーン」などの普及・PR活動を展開。県本部でも、県と（株）ポケモンとの包括連携協定に基づき、みえ応援ポケモン「ミジュマル」とコラボした伊勢茶商品を発売しました。

県は、2022年度からの10年間で取り組む、新たな「伊勢茶振興計画」を策定し、生産者の所得向上と消費拡大を目標に掲げました。生産者、茶業関係者、行政、JAグループが一致団結し、県茶業の振興と茶産地の維持発展に向けて、オール三重で取り組んでいきます。

プレゼント 「ISECHAティーバッグ」のセットを5名様にプレゼントします。

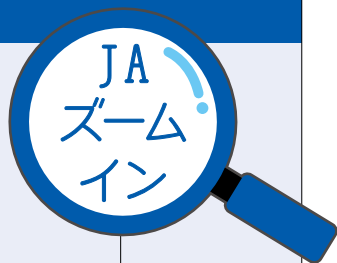


応募方法 件名に「ブランドヒストリープレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、JA全農ウィークリーの感想をご記入の上、メールにてご応募ください。

応募先 zz_zk_zennohweekly@zennoh.or.jp

締め切り 令和4年9月30日(金)23時59分

※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。
また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。



安全・安心な農畜産物をお届けし

大切な農業を未来へ

群馬県のJAたのふじは2000(平成12)年、藤岡市・群馬吉井町・奥多野・群馬藤岡の各農協が合併し発足しました。県南西部に位置する多野藤岡地域で面積は約538平方km。水と緑に恵まれ、米、麦、園芸、畜産、花きなど多様な農業が営まれています。取り組みと



トマトの出荷が本格化

して、安全・安心、新鮮な農産物を食したいという消費者目線に立ち、トレーサビリティ(生産・流通履歴を追跡する仕組み)の導入やエコファーマーの認定を積極的に実施し、消費者に良質な農産物をお届けしています。さらに地産地消の活動や子どもたちへの食農教育により、生産者と消費者の距離を近づけます。農業の持つ多面的機能の維持にも取り組み、大切な農業を未来へつなげます。

選果場は1年間ほぼフル稼働

藤岡市矢場の野菜集送センター(藤岡では7〜10月にナス、12〜7月にトマトが管内の生産者から持ち込まれ、

パート従業員約50人が選果作業を行っています。両野菜とも色や規格、品質などを一つ一つ丁寧に人の手で選別し、箱詰めされます。従業員の厳しい品質管理により市場で高い評価を受けており、生産者も厚い信頼を寄せています。

販売実績で優秀賞を受賞

営農経済部店舗課の高橋佳行農機センター長は



共同購入トラクターの納品

2021(令和3)年度の農業機械製品販売で優秀な成績と活躍が認められ、全農群馬県本部から優秀賞を受賞しました。主な取り組み



農業機械・製品販売で好成績を挙げる農機センター

に、農機センター内や直売所のスペースを利用した展示会の開催、メーカーコスト削減により低価格を実現した「共同購入トラクター」の推進活動を他部署の職員も一丸となって展開しました。共同購入トラクターが納車された組合員からも「馬力もあるし、燃料タンクも大容量だから作業がはかどる。キャビン仕様で暑さ寒さをしのぐ冷暖房完備なのもうれしい」と喜びの声をいただきました。

これからも食農教育や地産地消に積極的に取り組み、農業者所得の増大を図りながら持続可能な農業の実現に向けて、生産者と消費者に発信できるJAを目指します。

JAたのふじ(群馬県)



概要

令和4年2月末現在

正組合員数	4096人
准組合員数	7566人
職員数	222人
農産物販売高	35億8956万円
購買品供給高	20億6780万円
貯金残高	958億918万円
貸出金	141億6670万円
長期共済保有高	2212億7529万円
主な農畜産物	ナス、トマト、イチゴ、キュウリ

長野県産ブドウ「クイーンルージュ」が味わえる

全農の直営飲食店舗で「長野県産ぶどう三姉妹フェア」

全農は、東京都・福岡県内の直営飲食店舗(3店舗)で、9月23日~10月10日の間、「長野県産ぶどう三姉妹フェア」を開催します。【長野県本部、フードマーケット事業部、園芸部】

長野県は、昼夜の寒暖差が大きいことや全国トップクラスの日照時間により、ギュッとまみを蓄えたブドウをはじめ、四季を通じてさまざまな品種の果物を栽培する、まさに果物の宝庫です。

今回のフェアでは、今年本格デビューする

県オリジナルの赤ブドウで糖度が高く皮ごと食べられる「クイーンルージュ」をはじめ、黒紫色の「ナガノパープル」、黄緑色の「シャインマスカット」の3品種をぜいたくに使用したパフェやフルーツサンドなどの限定メニューを提供します。



※「クイーンルージュ」は長野県、「ぶどう三姉妹」はJA全農長野の登録商標です。

【メニュー提供概要】

期間 2022年9月23日(金)~10月10日(月)

実施店舗

みのりカフェ三越銀座店/みのる食堂三越銀座店/みのりカフェ アミュプラザ博多店

※10月2日、8日、9日は店頭でブドウを販売します。(数量限定)

店舗詳細はこちら



TOKYO FM/JFN系列38局ネットで放送中のラジオ番組【広報・調査部】

全農 ZEN-NOH COUNTDOWN JAPAN in 長崎 公開生放送



ジョージ・ウィリアムズ



安田レイ



ゲスト:遊助

毎週土曜日 13:00~

9月24日の放送はFM長崎40周年と西九州新幹線開業を記念して、長崎から生放送でお届けします。会場は景観が素晴らしい長崎県庁8階展望室。レギュラー出演のジョージ・ウィリアムズさんと安田レイさんはもちろん、ゲストに遊助さんも登場します。



毎週木曜日 15:50~

(地域により放送時間が異なります)

鹿児島へ出張取材

川瀬良子さんが鹿児島くみあいチキンフーズ(株)、JA鹿児島県経済連の直営店「華蓮」を取材。9月28、29日の2日間放送します。



パーソナリティ:川瀬良子



JA全農大阪

「泉州水なす」は大阪府南西部に位置する泉州地域の特産品として古くから栽培されています。水ナスは一般的なナスに比べて、絞ると水がしたり落ちるほど多くの水分を含み、皮が薄くて柔らかいことが特徴です。

丸みを帯びた果実は甘みがあり、あくも少なくそのまま食べられることもできますが、みずみずしさを楽しめる浅漬けがおすすめ。ほかにも炒め物にサラダといったさまざまな料理シーンで活躍してくれます。



JAいずみの 生水なす(6個入り)1689円(税込み)

ご注文はこちら



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com